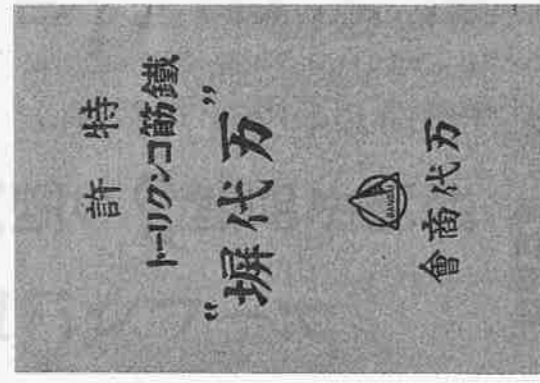


# 万代商会が創業100周年



現存する最古のカタログ

創業当初より屏と柵が専門だったらしく、工場側面に貫孔を設けたコンクリート製の柱を製造し現場で建込み、隣部は横鉄筋を柱

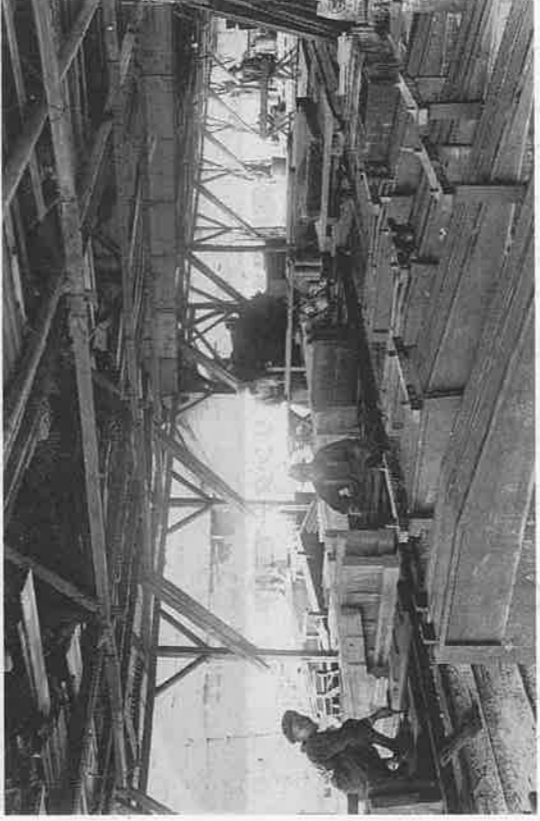
【組立塀】コンクリート製の柱・控付柱・板・かまきを使ひ、根固めコンクリートを打設して建て込んだ柱の柱間に板を挿し落とし、上部をかまきで固定して構築する塀。日本産業規格では筋コンクリート組立塀構成材「JIS A 5409」で一般には組立塀・万年塀・万代塀と呼ばれている。「万代」はロコモータと共に同社の商標登録で、万代塀は万代商会が提供するランド商品。防犯や目隠し、遮音などを目的

万代商会(本社 東京都千代田区有楽町、社長 浅田大治氏)が創業100周年を迎えた。同社は1924年(大正13年)4月の創業以来、組立塀・組立柵の製造から施工を主業に、意匠性の高いDRCO塀やストロンウォールを提供する他、ホロウブロックなど建築物用のプレキャスト装飾部材でも強みを発揮。その専門性を生かして存在感を示している。万代商会の100年の歩みと今後の展望について、浅田大治社長に話を聞いた。

## 関東大震災を機に創業 御用先に宮内省や華族

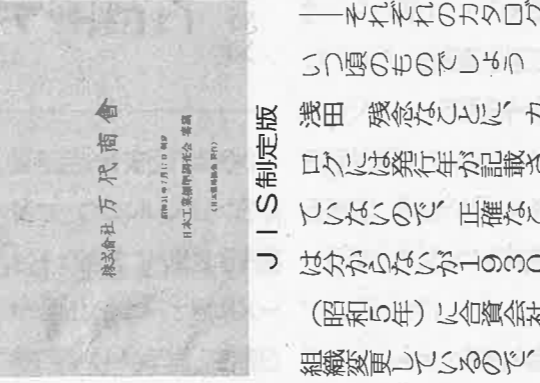
の貫孔に通し縦鉄筋と組立て、仮枠を取り付けてコンクリートを打ち込むことで、柱の貫孔にコンクリートが流れ込み一体となる壁体構造であった。古いカタログが残っていて、その図面を見ると、壁部鉄筋が真ん中に配置されるように、柱の貫孔を矢形にする工夫がされているのが分かる。

同時期カタログの口は「BANDA」で、当時の社名は「ほんたいしょう」か「だつた」ことが分かる。表紙には特許鐵筋コンクリート「万代塀」とあり、施工例として、丸の内報知新聞社の外構に高さ九尺(2.7m)や三田の嶺須屋侯爵家、東京市青山斎場等の写真が掲載されている。住所はその後、東京市麹



川崎工場

町區水楽町丸の内ルナシググ階を経て、東京市麹町區有楽町小谷ビルディング参階となり、今の場所に移った。工場は創業時から1977年まで川崎市境町で、1980年に大和工場(神奈川県大和市)を開設した。●合資会社に組織変更 官公庁や大手企業 邸の外構に万代塀



万代塀防空壕(展示場)

れ以前と以後の区別はつらぬが、特に重要視された基礎とかまきは現場打ちの壁でも、おおよその時期は分かる。株式会社組織変更したのは1953年(昭和28年)で、それ以降は工事経歴書も揃っている。合資会社になった時に「型録(カタログ)」の口にも「BANDA」から現在の「MANDA」に変更している。この頃のカタログには壁体を現場打ちする従来の「特許万代塀」とは別に、工場製作のパネルを使って組み立てる「特許組立式万代塀」が登場している。板もプレキャスト化して工期の短縮を図った

つたものと意匠に工夫を凝らして、当時は外構にお金をかけたことがわかる。 ●組立塀JISと工業組合設立 戦後のJIS規格制定について教えてください。 浅田 戦後の復興期には組立塀業者も急増し、粗製乱造を防ぐため、JIS規格「鉄筋コンクリート組立」が、1956年にA5409として制定された。 当社は創業者の浅田大治が専門委員会の構成メンバーとして名前が掲載されているが、万代商会のほかは8社のメーカーが名前を連ねている。 東日本プレキャスト製品工業組合はこのメンバーが中心となり、1958年12月に設立された工業組合で、当初は塀屋の組合といわれた。 役所などの官公庁、鉄道、保険、金融、電機、建設などの大手企業、学校、神社、万代父の浅田英治は1923年(大正12年)生まれで、生後二カ月を経過に横浜で関東大震災に被災し、中学生の頃結婚を思い、戦争には征かなかった。横浜高等専門学校を卒業すると会社を手伝い、昭和4年に祖父が亡くなるまで代目

の社長に就いた。温厚かつ



券が必要ではありませんが

### 建設受注生1カ月前完成

増加だった。地方の機関の11.0%減)で6カ月前連続共工事受注額は、21兆69

